

2022年4月27日

2022年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

消費の活発化に期待がかかるが、先行き下振れ懸念強まる

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、3月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2022年1～3月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「二輪車部品」の3業種となった。
- 『低調』は「自動車部品」「建設」「住宅」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の9業種で、『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2022年4～6月期の見通しについては、引き続き『好調』が1業種、『順調』が2業種、『普通』が3業種となる。
- 『低調』が9業種で『不調』の業種はなく、業種の内訳も前期と変わらない。
- 3月下旬にまん延防止等重点措置が全国的に解除されたことで、ゴールデンウィークや夏場に向けて観光やレジャーを中心に消費活動の活発化に期待がかかるが、コロナ変異株による感染再拡大やウクライナ情勢の行方、原材料やエネルギーの価格高騰など、県内の産業景気の先行きには下振れ懸念が強まっている。

業 種	業 界 天 気 現況 (1-3月) → 見通し (4-6月)
製 紙	 → 
食 品 ・ 飲 料	 → 
工 作 機 械	 → 
民生用電器部品	 → 
自 動 車 部 品	 → 
二 輪 車 部 品	 → 
建 設	 → 
住 宅	 → 
大 型 小 売 店	 → 
自 動 車 販 売	 → 
物 流	 → 
情 報 サ ー ビ ス	 → 
人 材 派 遣	 → 
観 光 ・ レ ジャ ー	 → 
外 食	 → 

※本件のお問合せ先 大石 彰男

消費の活発化に期待がかかるが、先行き下振れ懸念強まる

業界景気の現況（2022年1～3月期）

県内産業の現況（2022年1～3月期）は、『好調』が「工作機械」の1業種、『順調』が「民生用電器部品」「情報サービス」の2業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「二輪車部品」の3業種、『低調』が「自動車部品」「建設」「住宅」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の9業種で、『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2022年4～6月期）

4～6月期の見通しについては、前期に続き『好調』が1業種、『順調』が2業種、『普通』が3業種、『低調』が9業種で『不調』の業種はなく、業種の内訳も前期と変わらない見通し。3月下旬にまん延防止等重点措置が全国的に解除されたことで、ゴールデンウィークや夏場に向けて観光やレジャーを中心に消費活動の活発化に期待がかかるが、コロナ変異株による感染再拡大やウクライナ情勢の行方、原材料やエネルギーの価格高騰など、県内の産業景気を取り巻く先行きには下振れする懸念が強まっている。

まん延防止等重点措置の解除により回復の期待がかかる「観光・レジャー」だが、支援策の後押しはあるものの、ガソリン価格の高止まりがネックになりそう。また、外出自粛の緩和で来客数の回復が見込まれる「外食」も、コロナの感染再拡大への懸念が足かせとなる見込み。「大型小売店」は百貨店の回復が期待されるが、総合スーパーは外食へのシフトや商品値上げの影響を受けそうで、これら3業種は引き続き『低調』のまま推移する見込み。

製造業では、国内外ともに設備投資意欲が旺盛な「工作機械」が『好調』を維持。家庭用エアコンなど完成品メーカーが増産を計画している「民生用電器部品」は『順調』、コロナ禍で需要が旺盛な「二輪車部品」は『普通』にとどまる見通しだが、両業種ともに部品調達面で懸念が残る。一方、本県の主力産業である「自動車部品」は、半導体不足などの影響で完成車メーカーが生産を抑制する計画を立てており、前期同様『低調』の見通し。こうした状況を受けて、供給不足で納車遅れが長引く「自動車販売」、輸送用機器関連の回復が見通せない「物流」、製造業向け派遣需要が期待できない「人材派遣」の3業種も『低調』が続く見通し。

そのほか、コロナ禍でデジタル化の需要が底堅い「情報サービス」は『順調』を維持。また、人流増加で主力の業務用トイレ紙の需要回復が期待される「製紙」、飲料缶が前年を上回る「食品・飲料」が、ともに『普通』のまま推移する見通し。一方、前年の大型公共工事の反動減が見込まれる「建設」、住宅ローン減税に伴う駆け込み需要の反動減が続く「住宅」の2業種は『低調』が続く見通し。

2022年4～6月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業 種	業 界 天 気 現況 (1-3月)	見通し (4-6月)	売 上 高 (前年同期比伸び率)	主 要 産 業 の 見 通 し
製 紙		→ 	→	衛生用紙は業務用の回復に期待、板紙は前年並みで推移
食 品 ・ 飲 料		→ 	→	原材料価格やエネルギー価格の上昇で、厳しい収益環境に
工 作 機 械		→ 	↗	企業の旺盛な設備投資意欲のもと、内・外需ともに好調に推移
民生用電器部品		→ 	↘	完成品メーカーは増産計画だが、中国製部品の調達が懸念材料
自 動 車 部 品		→ 	→	半導体不足などの影響続き、生産量は低水準にとどまる見通し
二 輪 車 部 品		→ 	→	生産量は前年並みで推移する見通しだが、下振れ懸念は強い
建 設		→ 	↘	公共工事は低調、民間工事は前年水準で推移する見通し
住 宅		→ 	↘	駆け込み需要の反動減が続き、前年を下回る見通し
大 型 小 売 店		→ 	→	まん延防止等重点措置の解除で、百貨店は回復
自 動 車 販 売		→ 	→	供給不足が続き、販売台数は前年並みにとどまる
物 流		→ 	→	輸送用機器は低調だが、消費関連が底堅く推移
情 報 サ ー ビ ス		→ 	↗	官民ともに需要は底堅く、安定した事業環境が続く
人 材 派 遣		→ 	→	自治体向け派遣需要が増加、製造業は厳しい状況が続く
観 光 ・ レ ジ ャ ー		→ 	↗	支援策の後押しはあるが、ガソリン価格の高止まりがネックに
外 食		→ 	↗	外出自粛の緩和などで売上高は前年比増

表の見方

業 界 天 気				売 上 高	
	好 調		低 調	↗	非常に増加(+10%以上)
	順 調		不 調	↗	増 加(+3～+9%)
	普 通			→	横 ば い(+2～△2%)
				↘	減 少(△3～△9%)
				↘	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査『現況』推移

年 次		2019年			2020年				2021年				2022年
四 半 期		Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ
対象月 (○は調査月)		4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③ (今回調査)
全業種の 平均階級値		3.15	2.90	2.65	2.30	1.67	1.67	1.87	2.47	2.53	2.40	2.60	2.67
好調：5													
順調：4													
普通：3													
低調：2													
不調：1													
（業 種 数）	好調 	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1
	順調 	3	5	3	2	1	0	0	2	3	2	1	2
	普通 	11	8	8	5	3	2	3	5	4	4	5	3
	低調 	4	7	8	10	1	2	7	6	6	7	7	9
	不調 	0	0	1	3	10	10	5	2	2	2	1	0

注1)「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(3月調査であれば1～3月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(3月調査であれば4～6月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。

調査時点…2022年3月上旬

回答企業…県内主要15業種(212社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。
(2020年1～3月期までは20業種の平均値)

各業種および表の見方

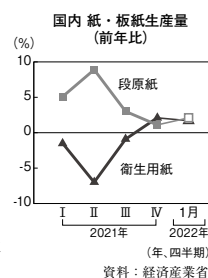
紙 製

衛生用紙は業務用の回復に期待、板紙は前年並みで推移

【現況】
↓
【見通し】

【1-3月期】家庭紙の生産量は、トイレ紙、タオル用紙、ティッシュペーパー等が伸び、消費増進策により発生し、前年比で増加した。また、調子に推移した。現況は、引き続き堅調な需要が徐々に浸透しつつある。

【4-6月期】主力のトイレ紙の生産量は、仮需は落ち着くものの、人増加による業務用需要の回復が期待される。生産量は値上げ交渉を進めて、値上げが、中小各社の値上げは5月以降になる見込み。段原紙は、食品や通販向けが底堅く、前年と同水準で推移する見込み。



【4-6月期売上高】

前年同期比	1-3月期比
-------	--------

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受 注 残
89～80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1～1.0ヵ月

操 業 度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製 品 価 格	受 注 残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ 月
89～80%	需 要 超 過	過 少	上 昇	上 昇	
79～70%	均 衡	適 正	横 ば い	横 ば い	
69～60%	供 給 超 過	過 多	下 降	下 降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製紙

衛生用紙は業務用の回復に期待、板紙は前年並みで推移

【現況】

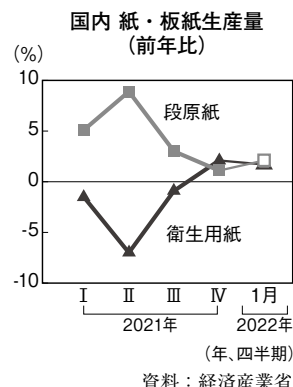


【見通し】



【1-3月期】家庭紙の生産量は、トイレ紙、タオル用紙、ティッシュのすべてで、値上げ前の駆け込み需要が発生し、前年を上回った。段原紙は、需要が引き続き堅調に推移したほか、まだ模様ながら値上げが徐々に浸透しつつある。

【4-6月期】主力のトイレ紙の生産量は、仮需は落ち着くものの、人流増加による業務用需要の回復が期待され、生産量は前年をやや上回る見通し。メーカーは値上げ交渉を進めており、販売先ごとに進捗は異なるが、中小各社の値上げは5月以降になる見込み。段原紙は、食品や通販向けが底堅く、前年と同水準で推移する見込み。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	0.1~1.0ヵ月

食品・飲料/製茶

原材料価格やエネルギー価格の上昇で、厳しい収益環境に

【現況】

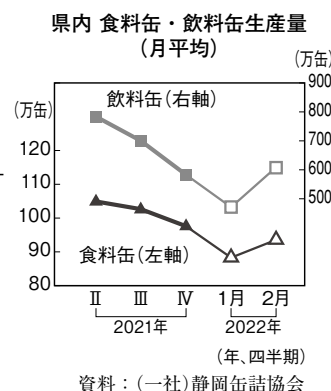


【見通し】



【1-3月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みで推移した。ただし、原材料や資材の価格上昇で採算が悪化した。飲料缶類の生産量は、低水準だった前年実績を上回った。製茶：製茶問屋の売上高は、前年をやや下回った模様。

【4-6月期】食品・飲料：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みの見通し。原材料価格やエネルギー価格の高騰による製造コストの上昇で、厳しい収益環境が続くと予想される。飲料缶類の生産量は、小型缶を中心に需要が回復し前年を上回る見込み。製茶：製茶問屋の売上高は、前年並みで推移する見通し。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1~1.0ヵ月

工作機械

企業の旺盛な設備投資意欲のもと、内・外需ともに好調に推移

【現況】

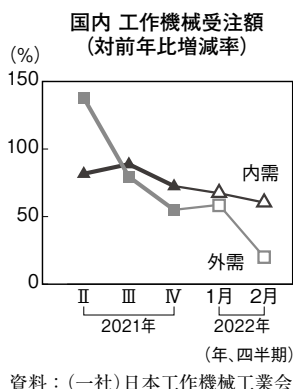


【見通し】



【1-3月期】全国および県内の受注額は、前年を大幅に上回った模様。メインの外需は、主力の中国向けが好調を持続、欧米向けも設備需要が底堅く活況を呈した。内需は、幅広い業種で需要が拡大しており、堅調な受注環境が続いた。

【4-6月期】全国および県内の受注額は、前年をやや上回る見通し。コロナ禍で、デジタルやグリーン関連投資が加速しており、国内外で企業の設備投資意欲は高水準。一方、足元では、部品・部材不足や原材料価格の高騰、物流網の混乱に加えて、海外情勢の悪化が懸念事項となっており、納期の長期化などが危惧されている。



【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	需要超過	適正	上昇	横ばい	1.5~15.0ヵ月

民生用電器部品

完成品メーカーは増産計画だが、中国製部品の調達に懸念材料

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

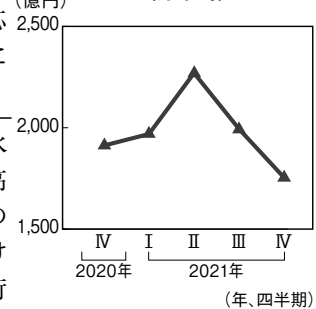
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、半導体や電子部品の調達網が回復し、前年並みの水準を確保した模様。また、冷蔵庫は食材のまとめ買い需要に対応した大容量モデルがけん引し、好調だった前年をさらに+10%程度上回った。

【4-6月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、高水準だった前年をやや下回る見通し。換気機能を備えた高性能機種を中心に底堅い需要が見込まれるが、コロナの影響で樹脂や電子部品など中国製部品の調達難が長引けば、生産調整を強いられる可能性もある。冷蔵庫の出荷台数も部品調達に懸念があり、下振れする可能性がある。

国内 家庭用電気機器出荷額
(月平均)



資料：経済産業省

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	1.0~3.5ヵ月

自動車部品

半導体不足などの影響続き、生産量は低水準にとどまる見通し

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

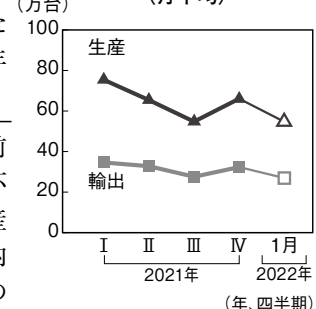
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】全国の自動車生産台数は、前年実績を△1割強下回った模様。半導体不足に加えて、コロナ感染拡大による操業停止のほか、3月には福島県沖で発生した地震の影響も受けた。県内部品メーカーの生産量も前年実績を下回って推移したとみられる。

【4-6月期】全国の自動車生産台数は、低水準だった前年並みにとどまる見通し。完成車メーカーは、半導体不足や部品メーカーの人員体制などを踏まえて慎重な生産計画を立てており、大幅な増産には至らない模様。県内部品メーカーの生産量も前年並みを見込むが、海外でのコロナ再拡大や物流網の混乱などが懸念される。

国内 自動車生産・輸出台数
(月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~2.0ヵ月

二輪車部品

生産量は前年並みで推移する見通しだが、下振れ懸念は強い

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

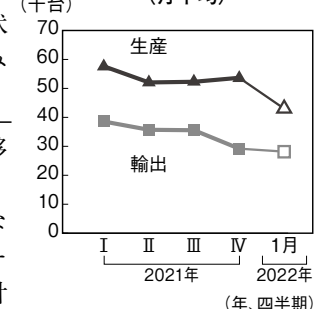
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】全国の完成車生産台数は、前年を下回って推移した模様。半導体などの部品の供給が追い付かず、旺盛な需要に対応することができなかった。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量も前年を下回ったとみられる。

【4-6月期】全国の完成車生産台数は、前年並みで推移する見通し。海外を中心に、旺盛な需要が続く見込み。ただし、コロナの感染再拡大による工場停止や半導体などの部品不足など、下振れ懸念は強い。県内部品メーカーの受注量も前年並みで推移する見込みだが、生産計画の見直しにより下振れする可能性がある。

国内 二輪車生産・輸出台数
(月平均)



資料：(一社)日本自動車工業会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	需要超過	適正	上昇	横ばい	0.5~1.5ヵ月

建

設

公共工事は低調、民間工事は前年水準で推移する見通し

【現況】



【見通し】



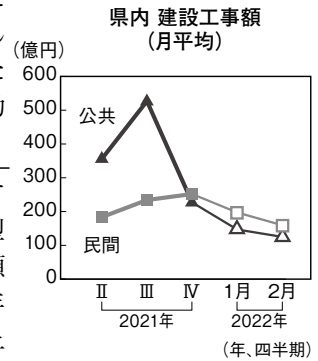
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の公共工事契約高は、前年を下回った模様。国関係が橋梁や護岸の工事終了により落ち込んだ。民間の工事費予定額は、物流関連施設が増加したが、前年に西部で医療用の大型施設の着工があった反動で、全体では前年を下回った。

【4-6月期】県内の公共工事契約高は、前年を下回って推移する見通し。前年は、島田市の新庁舎建設など大型契約があり、反動減が見込まれる。民間の工事費予定額は、製造業や小売業を中心に設備投資意欲が高く、前年と同水準で推移する見通し。一方、鋼材価格などの高止まりにより、収益面は厳しさが続くと思われる。



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	2.0~10.0ヵ月

住

宅

駆け込み需要の反動減が続き、前年を下回る見通し

【現況】



【見通し】



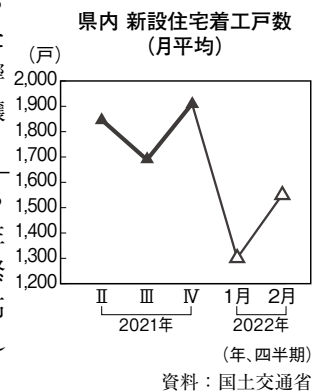
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回った模様。年明け以降、前年9月末で特例措置が終了した住宅ローン減税制度に伴う駆け込み需要の反動減の影響が続いている。利用関係別にみると、持家や貸家、分譲のいずれも前年を下回って推移した。

【4-6月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回る見通し。まん延防止等重点措置が解除されたことで、住宅展示場への来場者数の増加が期待されるが、前年は緊急事態宣言後の繰越需要などもあって比較的水準が高く、延長された住宅ローン減税も控除率が引き下げられており、増加に転じるのは難しい模様。



操業度	需給バランス	完成工事に在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	上昇	1.5~5.0ヵ月

大型小売店

まん延防止等重点措置の解除で、百貨店は回復

【現況】



【見通し】



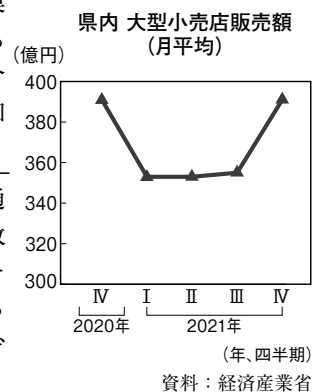
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の総販売額は前年並みで推移した模様。百貨店は、新型コロナの感染再拡大で来客数が落ち込み、低調だった前年をさらに下回った。一方、総合スーパーは、外食を控えて家庭で食事を取る世帯が増加し、主力の飲食料品を中心に前年をやや上回った。

【4-6月期】県内の総販売額は前年並みで推移する見通し。百貨店は、まん延防止等重点措置の解除で、来客数の増加が見込まれ、前年をやや上回る見通し。総合スーパーは、外食へのシフトで内食需要の減少が見込まれるほか、麺類や冷凍商品などの値上げによる販売量の減少が懸念され、前年をやや下回る見通し。



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	供給超過	—	上昇	上昇	—

自動車販売

供給不足が続き、販売台数は前年並みにとどまる

【現況】



【見通し】



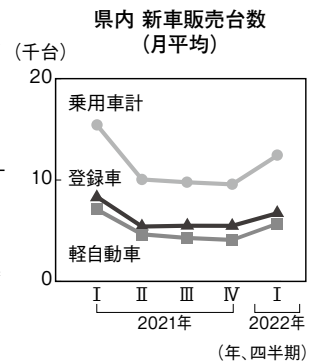
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の新車販売台数は、前年比△19.5%と大きく減少した。需要は底堅かったものの、昨年から続く半導体不足に加え、コロナの感染拡大もあって国内工場の稼働率は好転せず、販売車両が不足した。代替となる中古車市場も、価格が高騰し低調だった。

【4-6月期】県内の新車販売台数は、低水準だった前年並みにとどまる見通し。需要は旺盛だが、完成車メーカーの大幅な増産は期待できず、供給不足が続く見込み。コロナの感染再拡大や部品不足など懸念材料も多く、生産計画が下振れすれば、販売台数が一段と減少する可能性もある。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	横ばい	横ばい	3.0~6.0ヵ月

物流

輸送用機器は低調だが、消費関連が底堅く推移

【現況】



【見通し】



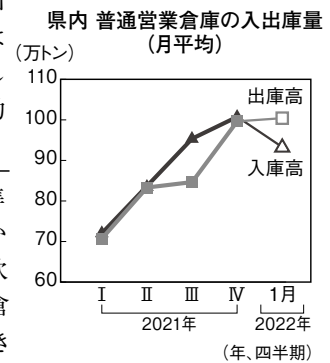
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや下回る水準で推移したとみられる。主力の紙・パルプなどは堅調だったが、輸送用機器や化学工業品が低調に推移した模様。普通倉庫の入出庫高は、鉄鋼や電気機械の荷動きが活発で、前年を+20%程度上回った。

【4-6月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移する見通し。半導体不足による先行き不透明感から輸送用機器は低調に推移するとみられるが、食品や飲料などの消費関連は底堅く推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、主力の紙・パルプや食品・飲料の荷動きに期待がかけられ、前年並みの水準は確保できる模様。



資料：静岡県倉庫協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	横ばい	—

情報サービス

官民ともに需要は底堅く、安定した事業環境が続く

【現況】



【見通し】



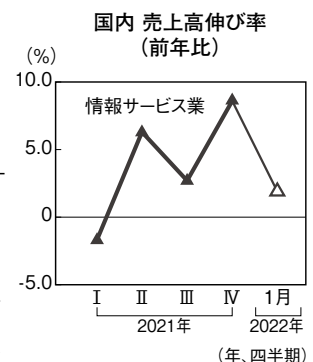
【4-6月期売上高】

前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した模様。新型コロナ第6波が急拡大したことで営業活動は制約を受けたが、開発中の案件はリモート対応が普及したことで大きな影響はなく、官民ともに旺盛なデジタル化需要のもと堅調に推移した。

【4-6月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移する見通し。ニューノーマルに対応すべく、民需は、幅広い分野でDXの実現に向けたIT投資が加速するとみられる。官需も、政府や自治体など行政のデジタル化が進められており、今後も堅調な受注環境が続く見込み。



資料：経済産業省
「特定サービス産業動態統計調査」

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	均衡	—	—	横ばい	3.0~11.0ヵ月

人材派遣

自治体向け派遣需要が増加、製造業は厳しい状況が続く

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

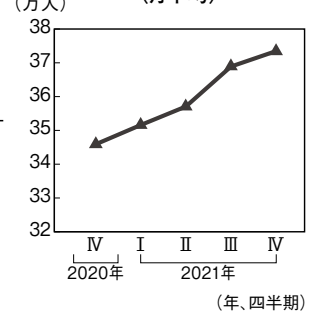
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回って推移した模様。協力金や支援金等の受付事務、ワクチン接種のスタッフなど自治体向けが増加した。一方、製造業では、生産上の制約を受けてスポット需要にとどまり、本格的な回復には至らなかった。

【4-6月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年並みで推移する見通し。自治体向けのスタッフ需要は底堅い一方、ウクライナ危機という新たなリスクによりサプライチェーンの混乱が長引き、製造業の派遣需要回復は遠く見通し。同様に倉庫業でも、製品等が入ってこない状況が懸念され、派遣需要は減少するとみられる。

全国 派遣社員の実稼働者数
(月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
79~70%	均衡	—	横ばい	横ばい	—

観光・レジャー

支援策の後押しはあるが、ガソリン価格の高止まりがネックに

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

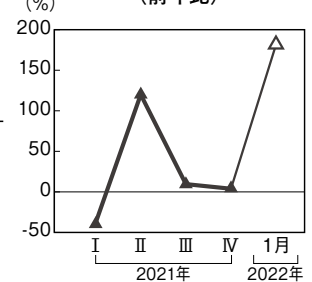
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】県内主要旅館の総売上高は、前年を+10~20%上回ったが、コロナ前の6~7割の水準にとどまった模様。まん延防止等重点措置の解除で、一時的に観光客が戻ったが、感染者数は大きく減少せず、観光需要の力強い回復はみられなかった。

【4-6月期】県内主要旅館の売上高は、前年を上回る見通し。前年は、東京都などで緊急事態宣言が発出され、観光目的で外出できる環境ではなかった。今年は、3月末に「今こそしずおか 元気旅2」が再開されるなど、需要喚起の動きはみられるが、ガソリン価格の高止まりが外出意欲を削ぐ懸念がある。

県内 宿泊者数
(前年比)



資料：観光庁

稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
69~60%	供給超過	—	上昇	横ばい	—

外食

外出自粛の緩和などで売上高は前年比増

【現況】



【見通し】



【4-6月期売上高】

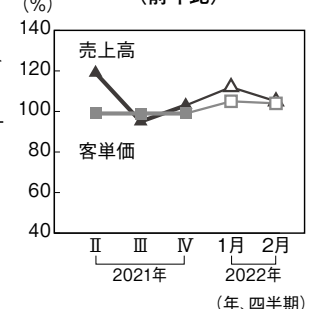
前年同期比 1-3月期比



【1-3月期】主要外食店の売上高は、低水準だった前年実績を上回った模様。ただし、1月下旬に再発出されたまん延防止等重点措置により営業時間が短縮されたため、コロナ前の水準には及ばなかった。収益面は、食料品など原材料価格や運送コストの上昇に伴って悪化した。

【4-6月期】主要外食店の売上高は、前年を上回る見通し。外出自粛の緩和やイベント再開などにより売上高、来客数の回復が見込まれる。ただし、コロナの感染状況次第では、大きく下振れする可能性もある。収益面では、食料品などの原材料価格やエネルギー価格の上昇に伴うコスト増加で、収益力の一段の悪化が懸念される。

全国 外食売上高・客単価
(前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	供給超過	—	上昇	横ばい	—

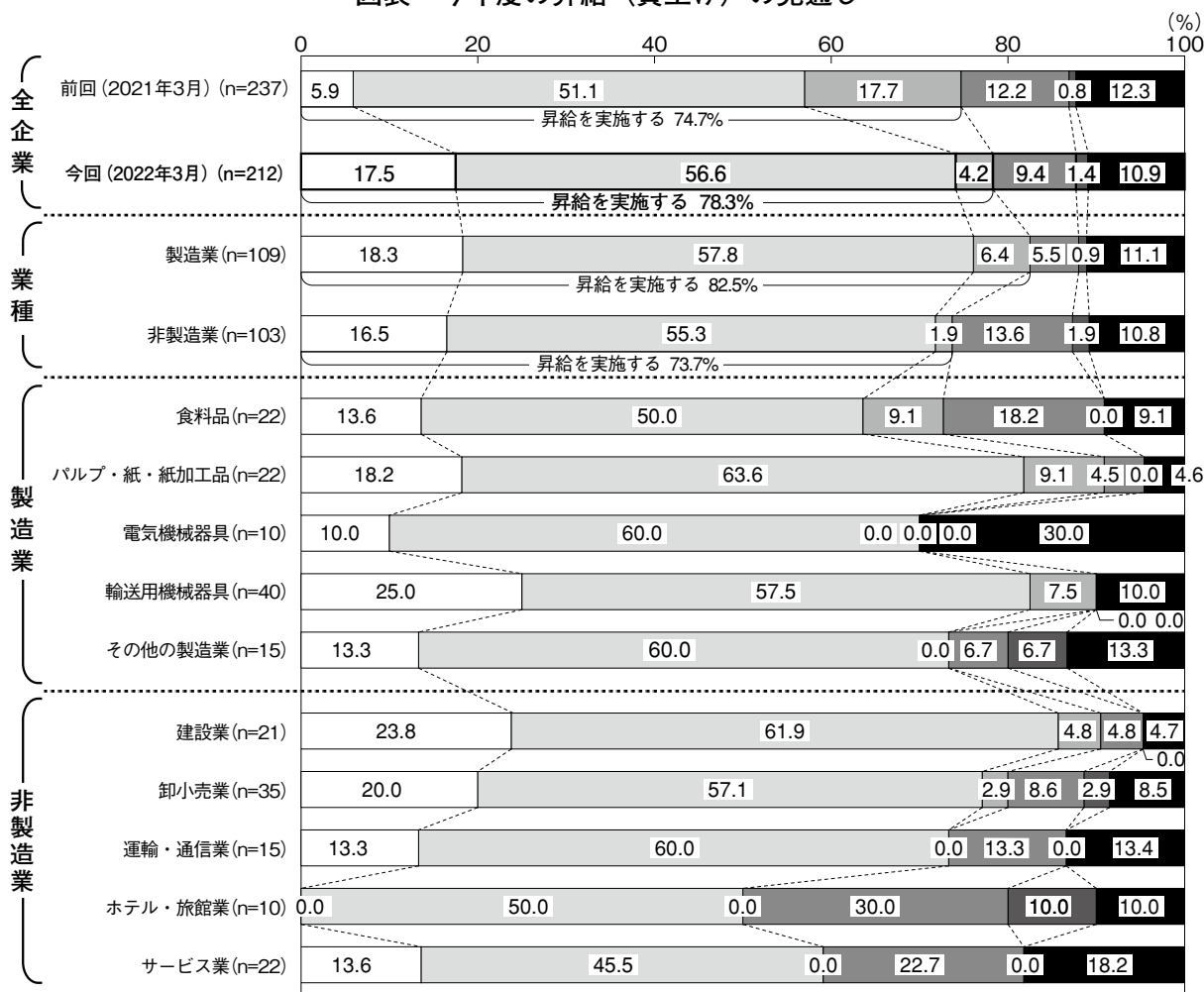
特別調査

昇給実施企業は増加傾向だが、業種による差が目立つ

県内企業に、今年度の昇給（賃上げ）に対する方針を聞いたところ、昇給を実施する（「昨年より高い昇給」「昨年並みの昇給」「昨年より低い昇給」の合計）と答えた企業は78.3%で、昨年比+ 3.6 ポイントの増加となった（図表）。特に、「昨年より低い昇給」との回答が昨年比△ 13.5 ポイント減少した一方、「昨年より高い昇給」が同+ 11.6 ポイント増加している。

昇給実施企業の割合を業種別にみると、製造業で82.5%（昨年比+ 3.1 ポイント）、非製造業で73.7%（同+ 2.9 ポイント）と、いずれも増加した。製造業では、「輸送用機械器具」で昨年並み以上の昇給を実施する企業が多く、「昨年より高い昇給」との回答が25.0%に達した。一方、非製造業では、「建設業」（90.5%）で昇給を実施する企業が多かったが、「ホテル・旅館業」では5割にとどまり、「昇給見送り（昇給なし）」や「賃下げを検討」との回答が目立った。

図表 今年度の昇給（賃上げ）の見通し



□ 昨年より高い昇給 □ 昨年並みの昇給 ■ 昨年より低い昇給 ■ 昇給見送り（昇給なし） ■ 賃下げを検討 ■ 未定
調査要領：調査時点2022年3月、調査対象企業577社、回答社数212社、有効回答率36.7%